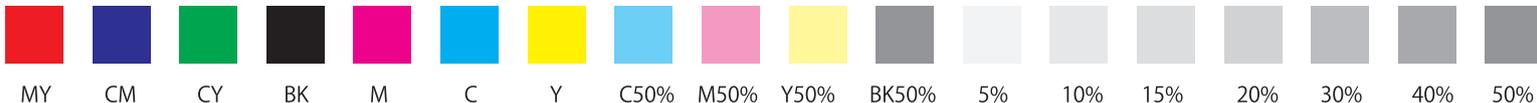




# 研究所



# だより

36号

明治学院大学 / 社会学部附属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 | TEL 03-5421-5204・5205

メールアドレス [issw@soc.meijigakuin.ac.jp](mailto:issw@soc.meijigakuin.ac.jp) ホームページ <http://soc.meijigakuin.ac.jp/fuzoku/>

## 1 所長ごあいさつ 社会学部附属研究所所長

4月より、附属研究所所長を拝命し、ようやく2か月が過ぎたところです。2年間という限られた時間ですが、学部の研究機関として長い歴史をもつ研究所の役割とは何か、そこで何をやるべきかについて迷いながらの日々です。

さて新型コロナ禍の日々も、すでに3年目に入っています。この2年間、研究所はもとより学部全体が、これまで経験したことのない状況の中で、右往左往しつつ、運営を継続してきました。今もコロナ収束とはいえない状況ではあるものの、どう日常生活を取り戻していくかが、社会全体の目標になりつつあります。コロナ禍では、誰もがこれまでの日常生活のあり方を変えることを余儀なくされました。学ぶこと、働くことのあり方も、ごく当たり前に対面で行ってきたことが、突然在宅でのオンラインを通しての活動となりました。それぞれがそれまでとは違う生活様式を求められ、それになじむ

ことを否応なく求められた日々でした。

本研究所は、2000年度から2年間「技術と人間」というテーマで特別プロジェクト研究を行いました。私は当時新しい技術として発展しつつあったオンラインコミュニティについて調査する研究班に入り、このコミュニティの存在がどのような社会的影響をもたらすのかについて共同研究しました。オンラインでなければ出会えない人々、例えば制度にはのらないステップファミリー、難病患者の人たちにとって、同じ経験をもつ仲間との出会いや、情報交換の場として当時のオンライン上の掲示板などがコミュニケーションツールとして有効であることがわかりました。また、オンラインのコミュニケーションでは、海外の同じ課題を抱えた人びとや組織とのアクセスも容易で、生まれたばかりのステップファミリーの当事者組織が、米国の先駆的組織と交わり、そのピアサポートを直接受けることができたことなどを観て、オンラインサポートの新たな可能性を感じました。

## 1 所長ごあいさつ 社会学部附属研究所所長

## 2 調査・研究部門

## 3 相談・研究部門

## 4 学内学会部門

## 5 地域創り担い手学習会報告/ 研修会案内

## 6 2022年度社会学部附属研究所 プロジェクトの紹介

## 7 2022年度社会学部附属研究所 スタッフの紹介

今回のコロナ禍でも、授業がオンラインになったことで、学生たちは、対面での学びの機会を奪われたという厳しい状況にあった一方、これまでは講義に招くことが不可能だった海外に在住する専門家のゲスト講義をオンラインで受講する等、新たな学びの機会の可能性を感じることもできました。

一方で、長引くコロナ禍、だれが一番厳しい状況に置かれているのか、3年目を迎えてその負の影響をしっかりと見据えていく必要も感じます。とりわけ他者からの日常的なケアを必要とする人たち、例えば高齢者や障害者は、より大きな影響を受けています。施設

や病院での集団感染では、適切な治療を受けられず、隔離されたまま悲惨な状況にあった方々の事例も明らかになってきています。研究所の今後の研究や相談部門のあり方を考えるとき、脆弱な人々へのコロナ禍がもたらした影響について省察することの重要性和、そこから新たな社会のあり方を追究することが求められているのだと感じています。

(所長：茨木 尚子)



## 研究所各部門から

### 2 調査・研究部門

「調査・研究部門」では、社会学・社会福祉学の調査・研究プロジェクトを実施しています。プロジェクトには、科研費等外部資金研究の準備や補完、講演等企画のための少人数の単年度プロジェクトである「一般プロジェクト」と、両学科スタッフの相当数が参画する2～3年度の大規模共同研究である「特別推進プロジェクト」の2種類があります。

昨年度(2021年度)は、「宇宙倫理学の基礎研究」(代表：稲葉振一郎)、「故郷喪失者としての硫黄島民一島民2世・3世の集団性をめぐって」(代表：石原俊)、「多文化共生社会における外国人介護人材の『生活者』としての支援システムの構築」(代表：金圓景)、「NIPTのより良いあり方を考える研究」(代表：柘植あづみ)の4件の一般プロジェクトが実施されました。昨年度に引き続き、「特別推進プロジェクト」は行われませんでした。

これらの成果につきましては、次号『研究所年報』(2023年3月刊行予定)

やその他学術雑誌等で今年度中に公開される予定です。(『研究所年報』掲載分を含めて、プロジェクト研究成果一覧は原則として翌年度の年報末尾に掲載いたします。)

なお2021年度には、たより35号でもお知らせしました通り、「明治学院大学公開講座」を研究所の企画で「コロナ禍とわたしたちの社会——パンデミックのなかで生きること」と題して実施いたしました。主として学外から、コロナ禍の下での日本社会の現状やそこに現れた諸問題について取り組んでおられる第一線の先生方のお話を、10月～11月にかけて全5回、Zoomを利用したオンライン方式で開催したところ、学内外、全国より多くの聴講者にお出でいただき、好評を博しました。

本年度(2022年度)の「一般プロジェクト」の詳細につきましては、本号の「プロジェクトの紹介」をご覧ください。学外者を含む4つのプロジェクトが鋭意活動しております。「特別推進プロジェクト」は行われておりませんが、今年度より「特別推進プロジェクト」を主として規模を目処に「A」と「B」の2カテゴリに再編した上で募集を開始いたしました。なお、昨年度より大

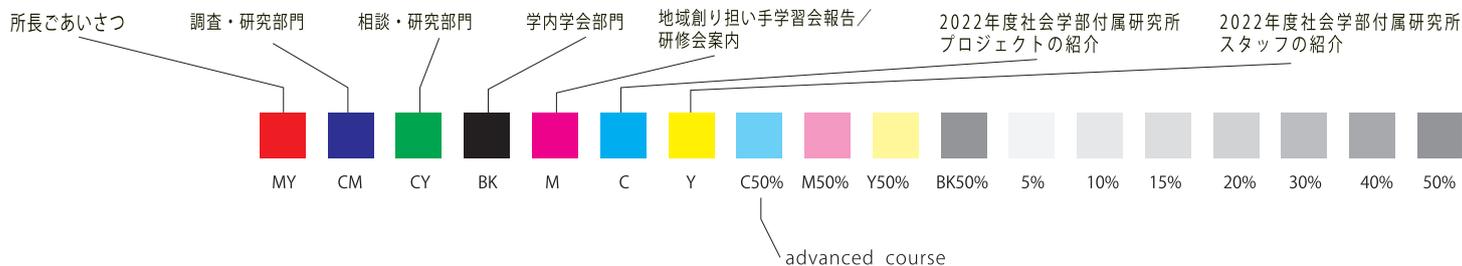
幅に緩和されてはおりますが、本年度も引き続き、新型コロナウイルス問題により、調査・研究活動に制約が出ております。各プロジェクトともオンラインの活用も含めて計画の柔軟な修正を行いながら遂行していますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(主任：稲葉 振一郎)

### 3 相談・研究部門

「相談・研究部門」では、昨年度に引き続き、①地域における相談活動、②関係機関や卒業生、地域住民を対象とした講座・研修活動、③研究・教育活動という3つの分野を中心に活動をおこなっています。新型コロナウイルス感染症対策下での活動も今年度で3年目となり、オンラインによる活動にも随分慣れましたが、人と人との繋がりが核となる相談・研究部門の所員たちは、対面での活動再開を待ち遠しく感じています。

2021年度の活動の振り返りとして、①地域における相談活動では、個別相談・地域活動相談に加え、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の期間を避けながら、港区内の事業所訪問や会議に出席しました。②関係機関や卒業生、地域住民を対象とした講座・研修活動では、2021年11月に社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会として「福祉現場からの実践報告～コロナ禍の女性支援において顕在化した課題」をオンラインで開催しました。ひとり親世帯支援、非正規雇用労働者支援、DV被害者支援の現場で活躍する3名の講師をお招きし、それぞれの支援領域における現状と課題についてお話していただきました。その後のグループワークでは、女性支援の現場における支援の難しさに加え、参加者それぞれの現場の課題と新たな取り組み方法を共有することができました。また、2022年2月には、地域創り担い手学習会 / 市民講座をオンラインで開催し、「これから



の高齢者福祉実践の在りかたとは～日本とアメリカの視点から考える～」をテーマに2名の講師からお話を伺いました。日本の高齢者福祉の歴史を振り返り、今後の支援のあり方を考える機会となったと同時に、多文化に対応したアメリカの高齢者福祉実践を学び、外国にルーツのある人々が増え続ける日本の多様な社会における支援のあり方についてもヒントを得ることができました。③研究・教育活動では、調査報告会への参加やゼミの地域活動への参加協力をおこない、地域事業所との繋がりを深めました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、可能な限り対面での活動を増やし、講座・研修活動として、臨床理論 / 技術研修会1回、学習会 / 市民講座2回の開催を計画しています。全国各地からの参加を可能とするオンラインでの取り組みも継続しながら、「誰もが共に地域で自分らしく安心して暮らしていく」ことをテーマとして、地域創りの担い手支援を中

心に活動の幅を広げていきたいと思えます。(主任:平澤 恵美)

#### 4 学内学会部門

明治学院大学社会学・社会福祉学会(通称:学内学会)は、本学社会学部の学生(学部生・大学院生)・教員・卒業生のすべてを構成員とする組織であり、社会学と社会福祉学を学び、実践する各種の活動を通じて社会学部生の能力向上に役立てると同時に、外部にも広く本学社会学部について知ってもらうことを目指しています。社会学部付属研究所の一部門である学内学会は、白金キャンパスに構える学会事務局の運営のもとで活動を行っており、これらに全面的に関わるのが社会学部の有志の現役学生によって構成される学生部会です。

2021年度より、学生部会には「STEP(Student/ Team/ Enjoy/ Projectの頭文字を繋げた語)」というキャッチーな愛称が付けられました。新型コロナ・ウィルス感染拡大の影響で対面授業が制限された時期にメンバーが減少し存続の危機に直面しましたが、逆境をバネに広報を積極的に行うなどした結果、2022年度はじめには20名以上の新入生がSTEPに加わりました。ネット配信型ラジオなどのユニークな企画もこの春より始まっています。

本学社会学部の卒業生によって構成される卒業生部会もこの学会を支える柱の一つです。多方面で活躍する卒業生と現役学生の橋渡しをしてくださるなど、イベントや刊行物の発行をより充実したかたちで実現する力添えをいただけてきました。卒業生部会の方々



#### ●特別講演会のチラシ

の多くはお仕事でご多忙にもかかわらず、その合間を縫って学内学会の運営に関わってくださっています。このようなご献身のおかげで、学内学会は学内にとどまらない幅広い活動を行うことが可能となっています。

昨年度の学内学会は、コロナ禍で活動が制限されるなか、安全を優先しつつもさまざまなイベントをおこなってきました。以下におもなものをご紹介します。

- ・特別講演会(6月26日):本学社会福祉学科卒業生の岸川朋子氏を講師にお招きしました。講演タイトルは「意外とできちゃう!? 社会を豊かにする仕組みづくり」でした。
- ・社会学科ゼミサロン(10月9日):ゼミ選びに悩む社会学科2年生がゼミ生に直接質問できるイベントです。オンラインで開催され多くの学生が集まりました。
- ・社会福祉学科卒業生とのオンライン座談会(11月20日):本学社会福祉学科を卒業し様々な現場で活躍する卒業



#### ●2021年11月の講演会のチラシ

生との交流会には社会福祉学科の1～3年生が参加しました。

・研究発表会（12月11日）：4つの分科会で合計20件（ゼミ9件、個人11件）の発表が行われ、活発な議論が交わされました。

コロナ禍でさまざまな従来の慣行が

見直されるなか、学内学会も時流に即したあらたな活動や発信のあり方を、在校生や卒業生の方々とともに考えていきたいと思えます。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いたします。

（主任：松波 康男）



●社会福祉学科卒業生とのオンライン座談会のスクリーンショット

5

地域創り担い手学習会報告／  
研修会案内

相談・研究部門は、2021年度より「誰もが共に地域で自分らしく安心して暮らしていく」ことを目指し、活動していく方針を定めました。そこで2021年度の地域創り担い手学習会では、高齢者を取り巻く福祉的課題に焦点を当て、これからの高齢者福祉実践の在りかたを考える機会としました。具体的には、アメリカで学び、実践を積まれたソーシャルワーカーである伊藤由希氏（地域包括支援センター勤務）と、日本の高齢者福祉の研究者である岡本多喜子氏（本学名誉教授）にご登壇頂き、日本とアメリカのグローバルな視野から福祉実践の手掛かりを探りました。今回はグループワークはありませんでしたが、質疑応答も活発に行われ、アンケート結果からもご好評を頂きました。また、昨年度に引き続き ZOOM によるオンライン開催であったため、広範囲から学習会に参加して頂きました。

advanced course

「第36回社会福祉実践家  
のための臨床理論・技術  
研修会」

日時

2022年10月29日（土）  
13：00～16：00を予定

内容

テーマ：ソーシャルワーク実践にトラウマ・インフォームド・ケア（TIC）という視点を取り入れる（仮題）

■基調講演

講師：上記の内容に即した講師をお招きする予定

■ワークショップ

会場：明治学院大学白金キャンパス

●連絡先

明治学院大学社会学部附属研究所  
〒108-8636 港区白金台1-2-37  
Eメール ssoudan@soc.meijigakuin.ac.jp  
TEL・FAX 03-5421-5205

6

2022年度社会学部附属研究所  
プロジェクトの紹介

一般プロジェクト

●「島」の記憶継承—硫黄島民  
2・3世の活動を中心に

（代表：石原 俊）

●生活保護申請における相談対応  
の現状と課題—民間支援団体の  
視点からの考察—

（代表：新保 美香）

●訪問看護師の職業移行に関する  
定量的研究

（代表：米澤 旦）

●多文化共生社会における外国人  
労働者の生活実態と支援の課題

（代表：金 圓景）

7

2022年度社会学部附属研究所  
スタッフの紹介

所長	茨木 尚子
調査・研究部門主任	稲葉 振一郎
相談・研究部門主任	平澤 恵美
学内学会部門主任	松波 康男
所員	加藤 秀一
所員	仲 修平
所員	金 圓景
所員	宮崎 理
所員	金子 充
所員	佐藤 正晴
所員	三輪 清子
研究調査員（調査・研究部門）	稲毛 和子
ソーシャルワーカー（相談・研究部門）	末松 恵
助手	森 香苗
教学補佐	坂本 啓子
学内学会部門事務担当	坂口 和容